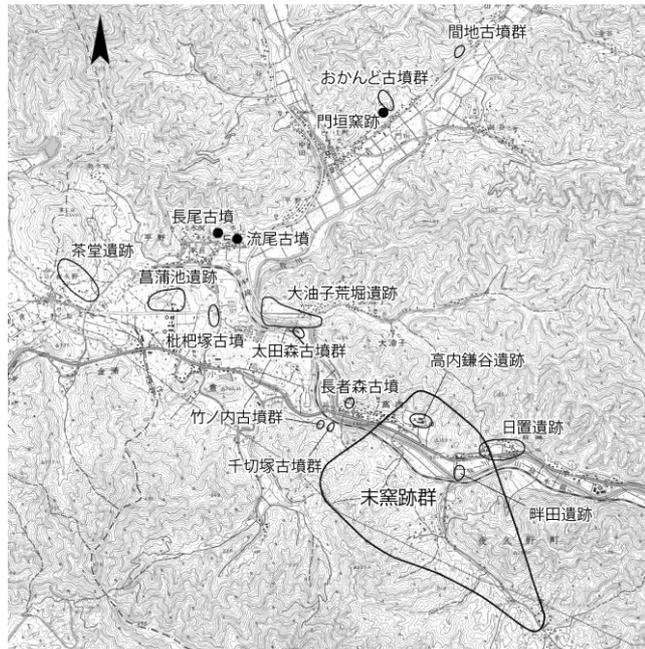


令和3年度 ACTR

分類 番号	A5	取組 名称	末窯跡群を中心とした夜久野地域の文化遺産・地質の調査と活用
研究代表者所属・職名：		文学部・教授	氏名： 菱田 哲郎
研究担当者： 京都府立大学（菱田哲郎、上杉和央、諫早直人、岸泰子、福井亘、佐々木尚子、小滝篤夫） 外部協力者（松本学博氏、鷺田紀子氏、東昭吾氏）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府福知山市文化スポーツ部、高内自治会、末自治会、日置自治会など			
<b>【研究活動の要約】</b>			
<p>福知山市夜久野町にある夜久野末窯跡群は、古代の須恵器窯跡として、その重要性は早くから指摘されていたものの、これまで十分な調査がされてこなかったため、改めてその評価をおこない、活用に向けた指針を得ることが課題になっています。一昨年度より窯跡について実地調査をおこない、窯跡ごとの調書を作成するとともに、新たに窯跡も発見しています。また、窯の周辺の地質についてもボーリング調査や岩石の科学分析をおこない、立地について地質上の特徴が明らかになりました。このほか、長者森古墳など周辺の古墳から出土した遺物、さらに夜久野地域の古道や建造物についての調査もおこない、総合的に文化遺産を把握する取り組みをおこないました。</p>			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<p>夜久野末窯跡群は、7世紀前半から10世紀にいたる須恵器生産遺跡であり、近年の調査では100基を越す窯跡の存在が推測され、京都府下屈指の窯跡群ですが、十分にその内容は知られていませんでした。現況は、水田跡の周囲の里山に窯跡がひっそりと眠っており、古代の窯跡群がそのまま手つかずで残されている状況になっています。本研究では、その景観も含め窯跡群の調査をおこない、その価値を広く知ってもらうこととしました。今年度は、その最終年度にあたりますが、窯ごとの調書を完成させ、また新たに7基の窯跡を発見することができました。そして、窯の本体や前庭部、作業用の通路などの痕跡が地表面で観察できる地点を抽出しましたが、そのデータは今後の活用につなげる予定です。窯跡がある地形や地質上の特徴についても、科学的な分析を加えて、はんれい岩を中心とする地質を好んで窯が立地することが明らかになりました。周辺にある長者森古墳、太田森古墳などの出土品について調査をおこない、窯が築かれた背景として関連付けることもおこなっています。さらに、夜久野地域の文化遺産の特徴を知るため、古道の調査や建造物の調査をおこない、多くの未指定文化財があることを確認しました。</p>			
<b>【研究成果の還元】</b>			
<p>京都府立大学考古学研究室「夜久野末窯跡群の調査（2）」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド集報』第8集（令和4年3月刊行）なお、文学部歴史学科のホームページで全文を公開予定。 講演会は新型コロナウイルス対策のため実施できなかったが、令和4年度に実施予定。また、地域にある博物館である夜久野町化石・郷土資料館の展示に研究成果を反映させる計画を立てている。</p>			
<b>【お問い合わせ先】</b>			
<p>文学部 考古学研究室 教授 菱田 哲郎 Tel: 075-703-5264 E-mail: hishida@kpu.ac.jp</p>			

参考 (イメージ図、活動写真等)



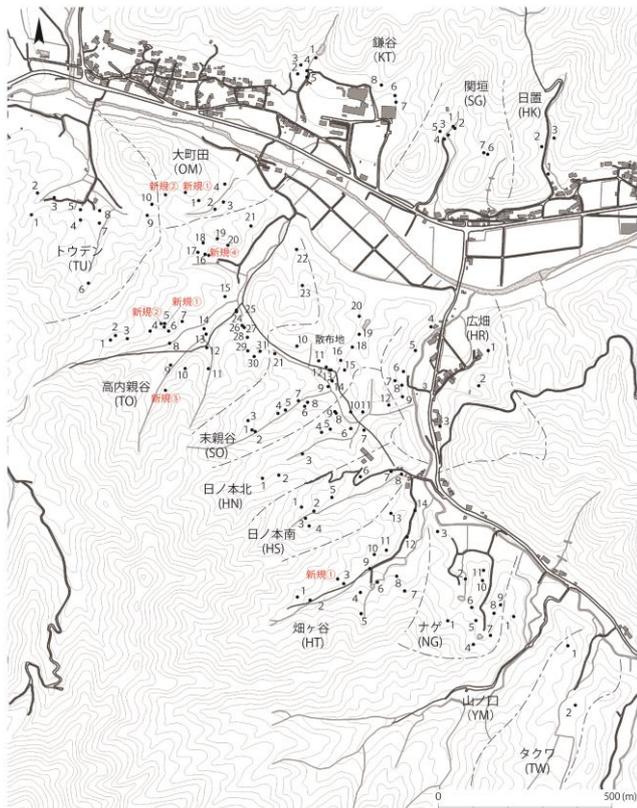
夜久野末窯跡群の位置と周辺の遺跡



夜久野末窯跡群の調査風景



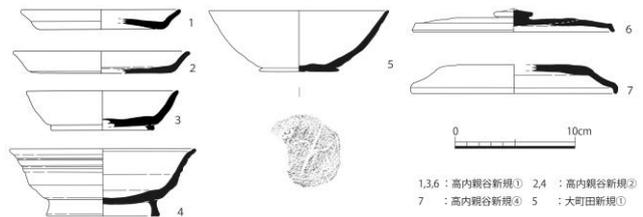
ボーリング調査風景



夜久野末窯跡群の新発見の窯跡



古道調査風景



新発見の窯跡出土須恵器の実測図